

# 日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所  
162-0805 東京都新宿区矢来町 65  
電話 03 (5228) 3171 FAX 03 (5228) 3175  
発行者 総主事 司祭 相澤 牧人

## 総主事会議

管区事務所総主事 司祭 ヨハネ 相澤牧人

8月25日から9月2日まで、メキシコで開催された総主事会議に参加してきました。アングリカン・コミュニオンの管区の総主事（または代理）が集まり、7日間の会議が行われました。この会議は、個々の管区が直面している特定の挑戦課題と機会を探求し、過去数年間にわたる経験から学んだことを分かち合い、アングリカン・コミュニオンの中の知識と理解を強めるためという目的を持って開催されました。この会議が何かを決議し、発表するというものではありません。34管区と4つの自治区があるアングリカン・コミュニオンですが、25管区とセイロン聖公会から代表が参加し、交わりと学びのときを持ちました。

この会議では、各管区からの報告、総主事の役割、ACC（全聖公会中央協議会）の役割、財政問題、緊急の課題などが話し合われました。また、一日観光や主日には分かれてメキシコの聖公会の礼拝に参加しました。

私にとっては初めてのいろいろな管区の総主事と会うことが出来、その報告を聞いていると、それぞれの管区によって総主事の役割はいろいろと違うのだなどの印象を強くしました。しかし、総主事としての欠かせない役割は伝達する任務があるということです。確かにそう思いました。管区において、総主事は今自分の管区で何が起きているのかを一番知っている立場にあるということ、それをいかに伝えるかということが大切な任務であるということを知りました。

また、財政問題では、それぞれの管区が苦勞していることを知らされました。異口同音に語っていたことは、移動費がかかるということです。日本聖公会も全く同じです。大切な会議を開催したいが、交通費の負担が大きいことがあります。しかし、しなければならぬこともある。これをどのようにクリアしていくかということです。

ひとつのヒントをいただきました。この問題を、危機(crisis)と捉えるか、挑戦(challenge)と捉えるか、機会(chance)と捉えるかということです。これを機会・好機と捉え、積極的に共に考えていくこと、組織を動かすためには費用がかかる、しかし、

## □会議・プログラム等予定

(9月25日以降および  
前回報告以降追加分)

### 8月

11日(木)～16日(火) 日韓聖公会青年セミナー(ボランティアキャンプ)〔仙台〕

### 9月

5日(月) 主事会議  
9日(金) 教区間協働デスク  
11日(日)～12日(月) 日本聖公会宣教150周年記念誌作成担当委員会  
12日(月) 正義と平和委員会(夫阪東京、管区事務所に変更)  
13日(火) 「いっしょに歩こう!」プロジェクト 運営委員会〔仙台〕  
25日(日)～27日(火) 宣教協議会実行委員会〔京都〕  
26日(月) 各教区宣教担当者・宣教協議会実行委員会合同会議〔京都〕  
27日(火)～29日(木) 主教会〔神戸〕  
29日(木) 正義と平和・憲法プロジェクト

### 10月

3日(月) 「いっしょに歩こう!」プロジェクト 小会議  
7日(金)～8日(土) 礼拝および礼拝音楽担当者会〔立教大学、東京〕  
12日(水) 広報主査会  
13日(木) 主事会議  
17日(月) 正義と平和・日韓協働プロジェクト  
18日(火) 正義と平和委員会  
21日(金) 「いっしょに歩こう!」プロジェクト 運営委員会〔仙台〕  
24日(月)～26日(水) 在日大韓聖公会出身教役者会〔東京〕  
25日(火)～27日(木) 各教区人権担当者会〔仙台〕  
27日(木)～28日(金) 宣教協議会実行委員会  
28日(金) 58-9 常議員会  
11月  
10日(木) ナザレ修女会を支える会  
10日(木) 財政主査会  
15日(火) 礼拝委員会

(次頁へ続く)

自分が出した献金が何に使われているかが明確ならば、献金は集まる、財政の報告をしっかりとすることである、という話になりました。日本聖公会も管区・教区・教会で再度考えてみてよいかどうか。その中で、より切り詰めた予算を立てて、それに見合っていく必要は、過去の働き方を再検討し、優先課題を精査する機会であることに気づいた、と理解しあったことです。

また、アングリカン・コミュニオン国際ネットワークについての説明もありました。環境・健康・女性・先住民・青年・家族・法律・正義と平和・難民と移住労働者・学生のネットワークがあり、これを大いに活用して欲しいとのことでした。関心がある方はホームページで検索してみてください。(www.anglicancommunion.org/networks)

すべてを言い尽くせませんが、会議の最後にA4で2ページのステートメントが出され、その中に、「各管区からの発表の中には、21000人の生命を奪った3月の地震と津波によって生み出された巨大な難題に対する、『いっしょに歩こう!プロジェクト』をとおしての小さな日本聖公会の対応についての感動的な説明があった。」と取り上げられたことはありがたいことでした。献金を申し出てくれた管区もありました。

最後に、主日聖餐式に参加したマルコス教会で、私の考えが変わったことをご紹介したいと思います。礼拝堂は建設中で、屋根と壁と電気がついてただけで、扉も窓も枠だけでした。(祭壇と椅子はありました。)冬はどうなるのかと心配しましたが、一年中同じような気候とのこと、安心しました。完成まであと10年くらいかかるとのことですが、感動的な礼拝でした。もちろんスペイン語ですから言葉は全く分かりません。しかし、聖公会の礼拝ですから、何をしているのかはよく分かります。アングリカン・コミュニオ

(前頁より)

- 15日(火) ウィリアムズ主教記念基金  
運営委小委員会〔立教大学〕
- 17日(木) 主事会議
- 18日(金) 58-10 常議員会
- <関係諸団体会議等>
- 8月13日(水)～18日(金) 聖公会青年ネットワーク管区青年担当者会議〔香港〕
- 9月9日(金) NCC規約改正委員会
- 21日(水) 都宗連理事会
- 22日(木) 日本キリスト教連合会
- 10月5日(水)～7日(金) 第3回9条  
アジア宗教者会議沖縄
- 5日(水)～10日(月) CCEA総会  
〔クチン/マレーシア〕
- 6日(木)～8日(土) 日本聖公会  
社会福祉連盟大会〔熊本〕
- 14日(金) NCC規約改正委員会
- 18日(火)～20日(木) 日本キリスト  
教連合会法人事務・会計  
実務研修会〔箱根〕
- 21日(金) NCC常任常議員会

ンの素晴らしさのひとつを体験しました。私たちゲストは一番前の席に案内されました。陪餐になり、聖餐を受けて席に戻り座っていました。会衆の陪餐が終わるころ、おそらく日曜学校の先生だと思いますが、大人に連れられて、10人ほどの子ども(幼児)たちが手をつないで前に出てきました。私は祝福を受けるのだと思っていましたら、皆陪餐するのです。あちこちを見ながら、口をくちやくちやしながら、キリストの体と血を受けている姿はなんともほほえましいと思いました。神学的な説明は学者が構築して欲しいですが、幼児陪餐はいいものだと思われたのです。



## □常議員会

第58回(定期) 総会后第8回 9月8日(木)  
<主な決議事項>

1. 大齋克己献金国内伝道強化プロジェクト  
選定基準及び手続き改定の件  
主事会議提出案を承認した。(各教区に案内済)

2. 東日本大震災被災教区の教区分担金免除・軽減の件  
東北教区および北関東教区の教区分担金免除を次のとおりとした。

### 2011年

東北教区 軽減率 75% △1,878千円  
北関東教区 同 75% △2,849千円

合計△ 4,727千円

2012年

東北教区 軽減率100% △ 2,504千円

北関東教区 同100% △ 3,799千円

合計 △ 6,303千円

2013年以降の免除・軽減については、次期総会に議案として提出する。

3. 被災教区の教会・幼稚園用建物復旧費用の支援の件

「いっしょに歩こう!プロジェクト」運営委員会提出の被災教区の教会・幼稚園用建物復旧費用支援(案)を承認した。

〈東北〉 教会7件(盛岡聖公会、仙台聖フランシス教会、米沢聖ヨハネ教会、福島聖ステパノ教会、郡山聖ペテロ聖パウロ教会、若松諸聖徒教会、小名浜聖テモテ教会) 10,401,351円 幼稚園7件(八戸幼稚園、釜石神愛幼児学園、聖クリストファ幼稚園、聖ルカ幼稚園、みその幼稚園、セントポール幼稚園、聖テモテ幼稚園) 11,219,762円 東北教区計14件 21,621,113円

〈北関東〉 教会7件(水戸聖ステパノ教会、土浦聖バルナバ教会、下館聖公会、宇都宮聖ヨハネ教会、日光真光教会、小山聖ミカエル教会、前橋聖マッテア教会) 44,569,856円 幼稚園3件(二葉幼稚園、愛恩幼稚園、下館幼稚園) 8,983,180円 北関東教区計10件 53,553,036円

〈横浜教区〉 教会1件(八日市場聖三一教会) 600,000円

[合計 教会15件 55,571,207円 幼稚園10件 20,202,942円 総合計25件 75,774,149円]

4. NCC第38回総会代議員の選出の件

NCC第38回総会(2012年3月、阿佐ヶ谷聖公会聖ペテロ教会)の代議員15名を選出した。(本人と交渉中)

5. 総主事の海外出張の件

総主事の以下の海外出張を承認した。

・目的: CCEA総会

・期間: 10月4日～10日

・場所: マレーシア・クチン

6. 原発問題に関する件

放射能・原子力発電について、聖公会内外に対して日本聖公会としての姿勢を明確にしていく必要がある旨、総主事より発議・説明を受けて次のとおりとした。

日本聖公会として取り組むことの方角については全員異議なく賛成した。

取組みの方法・内容については、「いっしょに歩こう!プロジェクト」運営委員会をはじめとする各方面で議論を深めることとし、継続審議とした。

7. 「いっしょに歩こう!プロジェクト」に関する件

(1) 運営規則の件: 運営規則を定めることの必要を確認した。

(2) 本部長の件: 現本部長である東北教区主教より「支援する側とされる側の責任者が同一人物でよいのか」という疑問が出されたが、両者を知っていることは大切なことであり、また最終の決定は運営委員会、常議員会がすることなので、現体制が現実的であるという結論となり、加藤主教にこのまま本部長をお願いすることとした。

(3) 特命担当主事任命の件: 事務局長の中村 淳司祭を「特命担当主事」に任命するよう、総主事より推薦を受けた。法規第92条2項に照らし、承認した。

この任命に伴い、中村 淳司祭の宣教主事の任を解き、総主事を宣教主事代行に任命することとした。なお、早急に宣教主事の後任を選出することが望ましいことを確認した。

(4) 東京教区の東日本大震災募金申し入れ金額3億円に関する件: 管区と東京教区の話し合いにより、東京教区の東日本大震災募金申し入れ金額3億円のうち、1億円を同教区が行う支援事業に用いることにしたいとの提案を受け、了承した。

次回以降の常議員会

10月28日(金)、11月18日(金)

### □主事会議

#### ■第58(定期)総会期第14回、7月28日(木)

[主な協議事項]

1. 大斎克己献金伝道強化プロジェクト選定基準に関して  
選定基準の変更案を作成し、常議員会に提案することとした。
2. 2012年度の教区分担金に関して
  - 1) 2012年度の教区分担金案を了承した。
  - 2) 東日本大震災被災教区の教区分担金の軽減・免除に関して  
財政主査会で検討された案を適当と判断し、常議員会に提案することとした。  
(常議員会「決議2」参照)

#### ■第58(定期)総会期第15回、9月5日(月)

[主な協議事項]

1. 大斎克己献金伝道強化プロジェクト選定基準および手続きに関して  
前回作成した変更案を確認し、成案を得た。常議員会に提案することとした。
2. 平和宣教教育活動資金からの支援に関して  
下記の申請を受けて、支援を決定した
  - ・申請者: 上原真依子(沖縄教区、三原聖ペテロ聖パウロ教会)
  - ・推薦者: 執事 岩佐直人(沖縄教区、三原聖ペテロ聖パウロ教会)
  - ・プログラム名: 広島平和礼拝(8月5日～6日、広島)
  - ・費用: 55,440円
3. NCC第38回総会代議員選出に関して  
NCCより提示の選出要件(\*)に従って候補者を選出し、常議員会に提案することとした。  
\* 教役者・信徒ほぼ同数、および男女同数とし、青年が4分の1となるように考慮すること
4. 放射能・原子力発電の日本聖公会としての関わりに関して  
放射能・原子力発電について、聖公会内外

に対して日本聖公会としての姿勢を明確にしていく必要がある旨総主事より発議・説明を受けた。各分野からの意見、視点が幅広く取り入れられるような作業グループの設置について、常議員会に提案することとした。

5. 国連の女性会議への代表者派遣に関して  
以下の会議への参加を含める諸事を女性デスクに計っていただくこととした。
  - ・国連女性会議、CSW会議: 2012年2月27日～3月10日、ニューヨーク
  - ・会議参加費用: 約5,000ドル(航空運賃、滞在費等)
6. アフリカ諸国の食料不足支援のための募金に関して  
CAPA(アフリカ聖公会協議会)より、アフリカ諸国の食料不足支援のための募金呼びかけがあり、これに応えることとした。  
金額: 500,000円  
支出科目: 緊急災害援助資金(同資金の現在高は、22,400千円)
7. WCC総会への代表者他派遣候補者に関して  
WCCより、2013年10月、プサンにて開催のWCC総会に代表者1名と青年・障がいを持つ人1名～2名を2012年7月までに選出し届けるよう、連絡を受けた。  
それぞれ関係者から意見を伺って決めることとした。

次回以降の会議:

10月13日(木)、11月17日(木)

### □各教区

#### 東北

- ・第91(定期)教区会 2011年11月22日(火)18時～23日(水)16時 東北教区教区会館ビンステッド記念ホール

#### 横浜

- ・聖職按手式 2011年9月24日(土)10時半 横浜聖アンデレ主教座聖堂 説教者: 司祭 相澤牧人 司祭按手 志願者: 執事 ペテロ松田 浩

- ・第71(定期)教区会 2011年11月22日(火)18時～23日(水)16時 横浜聖アンデレ主教座聖堂

### 京都

- ・聖職按手式 2011年10月29日(土)10時半 京都教区主教座聖堂(聖アグネス教会) 説教者:司祭 山野繁子(東京) 司祭按手 志願者:執事 エドワード・マイケル・パイ

- ・第106(定期)教区会 2011年11月23日(水)9時～17時 京都教区主教座聖堂

### 大阪

- ・聖職按手式 2011年9月3日(土)10時半 大阪教区主教座聖堂(川口基督教会) 説教者:司祭 松岡虔一 執事按手 志願者:聖職候補生 ジョージ林 正樹

### 九州

- ・第104(定期)教区会 2011年11月22日(火)17時～23日(水)15時 九州教区主

教座聖堂および教区センター

### 沖縄

- ・第54(臨時)教区会 2011年9月19日(月)10時半 日本聖公会沖縄教区センターベッテルハイムホール 議題:沖縄教区主教選出の件  
3名の候補者の推薦があり、35回の投票が行われたが、当選者は得られなかった。

### □神学校

#### ウィリアムス神学館

- ・体験入学 2011年10月18日(火)16時半～20日(木)14時半 場所:ウィリアムス神学館(宿泊はザ・パレスサイドホテル) 対象:満18歳(高卒)以上の方。年齢の上限・性別・学歴などは問いません。定員:10名(申込み順) 費用:12,000円(食費・宿泊費を含む) 申込締切:10月12日(水) 詳細は各教区教務所・教区事務所に案内があります。

## 《人 事》

### 横浜

司祭 ラファエル宮崎 仁 2011年8月2日付 島田伝道所協働司祭に任命する。

### 大阪

聖職候補生 ジョージ林 正樹 2011年9月3日 執事に按手される  
執事 ジョージ林 正樹 2011年9月3日付 大阪聖パウロ教会牧師補に任命する。

### 管区

司祭 中村 淳(東京) 2011年9月8日付 「いっしょに歩こう!プロジェクト」特命担当主事に任命する。宣教主事の任を解く。  
司祭 相澤牧人(総主事) 2011年9月8日付 宣教主事代行に任命する。

## 《教会・施設》

ナザレの家(東北) 2011年7月27日付 施設長、尾崎洋より加藤晶子に交代  
まこと地域センター(東京) 2011年4月1日付 宮本恭子、館長任命  
キッドスクール(東京) 同 同 園長任命  
真光教会(東京) 住居表示変更 (新) 町田市南つくし野1-4-17  
京都聖ヨハネ教会 FAX番号変更 (新) 075-757-7391(電話番号は変更なし)

## 広島平和礼拝の報告 2011

2011 広島平和礼拝実行委員会  
司祭 ダビデ 林 和広

8月5日(金)～6日(土)にかけて2011年度広島平和礼拝が行われました。広島平和礼拝の意図は、1) 原爆犠牲者を追悼し、世界平和のために祈る、2) 次代を担う人たちに原爆の悲惨さ、戦争の愚かさを伝える、3) 「主の平和」を学び、その実現の為に祈る、ことでもあります。

初日の午前9時半より最初のプログラムが始まりました。「入門編」、「中級編」、「大聖堂編」の3つのコースを選択し、学習するプログラムです。入門編は平和公園見学(原爆資料館及び供養塔等)、中級編は資料館を見た後、爆心地から2300メートルにある御幸橋付近を歩くコース、大聖堂編はカトリック平和大聖堂を見学するコースですが、60名の参加者がそれぞれの場所で学びの時間を過ごしました。

午後1時から広島復活教会信徒アイレネ佐伯啓子姉より被爆体験を聴く機会を頂きました。佐伯姉の体験を聴いた後、参加者同士でグループに分かれ、被爆体験の話の振り返り及び戦争、平和についてのシェアリングを行い、最終的に各グループの代表者が自分たちのグループで

気づかされた事柄をそれぞれ発表しました。それぞれの方々が改めて原爆の悲惨さ、戦争の愚かさ、平和への希望を熱く感じられたと思います。

その想いを胸に参加者は夕刻より平和公園に移動し、供養塔の前にて聖公会とカトリックと合同で「祈りのつどい」を行いました。その後、歌いながら平和行進を行い、カトリック大聖堂へ向かい、平和祈願ミサに参加しました。

翌日の6日は、朝8時から復活教会で原爆犠牲者追悼聖餐式が捧げられました。司式者は神戸教区主教中村豊師父、説教者は横浜教区主教三鍋裕師父でした。出席者は約90名、原爆投下時刻5分前より沈黙に入り、投下時刻には教会の鐘が教会の上空へと響き渡りました。そこに集う一人ひとりの平和への願い、原爆犠牲者の魂の平安への願いが鐘の音色と共に天に捧げられました。

「戦争の体験をしたことがないのでわからないですよね・・・」と言われたことがあります。昭和49年生まれの私には当然こうした体験はありません。ただ無言で聴くだけです。それを言われますと切なくなります。実際にその当時の苦しみを体験された方のリアリティを共有することは絶対にできないからです。当時の事を思い出すだけでも苦しく痛みがある中で、わたしたちにその体験を語る姿を目の前にしますと増々切なくなります。けれども自分ができる事はただ聴くだけです。教科書や戦争、原爆に関する本以上にそのリアリティを持った証言は自分の胸に突き刺さります。しかし、自分一人では決して平和を構築できませんし、平和を揺るがす様々な争いを終結



8月5日 平和公園での「祈りのつどい」

させることはできません。

### キリストの伝える平和

1963年、ローマ教皇ヨハネ23世の回勅「パーチェム・イン・テリス（地上の平和）」に次のような言葉があります。

「現在の状況では、平和は武力の均衡によってのみしか保障されないといい、軍備を正当化するのが当然のようにになっている。…すべての人が銘記しなければならないのは、軍事力増強の停止、軍備の廃止、ましてその廃止は人々の精神にまで及ぶ完全な軍備廃止がないならば、実現できないということである。…それは軍備の均衡が平和を招来するという公理を、人々の間の真

の平和は相互の信頼の中にしか確立することができないという原則に変える事によってのみ可能となりうる」

「キリストの平和」とは人間の力で確立するものではなく、十字架のキリストから注がれ、与えられるものです。キリストによって、キリストを軸にして人間の中に真の平和の芽が生じてくるのです。キリストが伝えた「平和」がこの地上に引き渡すようにと願い求めた2日間でありました。



## 2011年「長崎原爆記念礼拝」から核のない平和を考える

九州教区 大口聖公会 司祭 中島省三

被爆66年目を迎え、長崎原爆記念礼拝は8月9日(火)、五十嵐主教、堀尾司祭（長崎聖三一教会）の共同司式、説教は柴本孝夫司祭（小倉インマヌエル教会）のもとで、長崎三一教会で行われました。今回はGFSの全国研修会の開会礼拝も兼ねており、例年にも増して多数の参加がありました。

柴本司祭は説教の中で「21年前に平和委員として沖縄に行ったことがきっかけで、長崎に立って平和を考える活動を始めたが、被爆体験を聞くたびにショックを受けた。活動の中で被爆体験を聞く事があるが、『今まで家族にも誰にも語ったことはありません。今回が初めてです。』と言って語り始める方もおられ、その痛みの深さがよく分かった。長崎では被爆直後から『死の同心円』が広がっていたが、もう一つの同

心円『平和の同心円』も同時に広がっていった。その中心が被爆者たちの証言である。それを聞いて痛みに触れることは、十字架の痛みを中心として広がっていったキリスト教の働きと同じである。痛みを知る人が証人になるのである。私たちも証人との出会いを通して痛みを分かち合い、主の平和実現のために働くことが望まれている」と証言を聞き伝えていくことの意味を語られました。

原爆投下の11時2分、銅鑼の音を合図に参加者全員で黙祷を捧げ、献花をし、平和への願いを新たにしました。

式の最後に日本基督教団長崎教会の田浦静さんの被爆の証言が代読されました。田浦さんは被爆当時、活水女学校に勤務されており、被爆直後の生徒たちの様子を生々しく書き残して

おられます。証言の最後に「長崎には生き残りの人が沢山いる。実際にその目で見た人達だ。そして戦争に用いられた恐るべき凶器の威力を認めたのだ。生き残りは絶対に二度とやる戦争が起らないよう証人とならなければならぬ。」と証人として証言していくことの使命が綴られておりました。

原爆記念礼拝後、GFSの全国研修会が同じ長崎聖三一教会で開会されました。その講演会では被爆の証言者として活動されている、城臺美彌子さんの証言を聞きました。

城臺さんは「6歳の時被爆し、たまたま家の中にいて助かったが、庭で遊んでいた友達は即死した。その後、教員となったが、占領軍やその後の日本の核政策で原爆について語ることは禁止されてきた。そのうち、友人達が次々と癌や白血病で死んで行った。退職後は孫のお守りをしようと考えていたが、その孫も6ヶ月でなくなり、落ち込んでいたが、インド核実験の被爆者の話を聞き、核の恐ろしさを自分の被爆体験を通して語っていこうと決心した。日本の決断があと10日早ければ、原爆投下はなかった」と無念さを語っておられました。

翌日、GFSのメンバーと一緒に長崎のフィールドワークに参加しました。今回のGFSの研修会には韓国からも3名(内1名は国内在住)の参加がありました。フィールドワークでは「原爆資料館」、「永井隆記念館」、「爆心地公園」、などの原爆関係の施設と同時に、「岡まさはる記念長崎平和資料館(岡まさはる資料館)」を訪れたことは大きな意味がありました。「岡まさはる資料館」は私たち日本人が韓国(朝鮮)で何をしてきたのかを問いかける資料館です。韓国からの参加者3人と一緒にこの資料館の展示を見ながら、日本人として「申し訳ない」という気持ちでいっぱいでした。この資料館の展示物は、私たち日本人が原爆の被害者であると同時にアジアでは加害者でもあることはつきり

と示しています。この事を私たちはどのように捉えたらよいのでしょうか?まよめの集会の中で韓国の参加者の1人から「韓国で日本人がやってきたことは、日本の犯罪と言うより人間の問題だと思う」という発言がありました。この発言に日本の参加者は救われたのではないのでしょうか。

もう一つ、長崎で考えなければならないことがあります。それは「神はなぜ長崎に原爆を落とされたのか」と言う問に対する答えです。爆心地近くの浦上には約一万二千人のカトリック信徒が暮らしていました。キリシタン弾圧を生き抜いてきた人々の子孫でした。そのうち八千五百人が原爆で命を奪われたのでした(聖公会の犠牲者は29名)。なぜ長崎のカトリックの信徒がこのように多数犠牲になったのか?この疑問に対して自らも被爆したカトリックの医師、永井隆さんは「神の摂理」として受け取るようになります。「摂理」を不完全な者として創造された私たち人間が様々な間違いを犯す中で、完全な者に近づくために神から示される道標として捉える時、「なぜ長崎か?」という問の答えとして、この永井隆さんの「神の摂理」は私たちに一つの答えを与えてくれるのではないのでしょうか。それはまた、韓国の参加者の言葉「日本の犯罪と言うより人間の問題」にもつながるのではないかと思います。

原爆を直接体験した人々の数が減少して行く中で、核のない平和を実現するには、私たちが聞いて学んだ被爆の体験を、次世代につないでいく責任があるのではないのでしょうか。



長崎原爆朝鮮人犠牲者の追悼の碑に献花を済ませた韓国のミカエラさんと北海道教区の高木泉さん



## 「ふくしまの現在（いま）」

小名浜聖テモテ教会・郡山聖ペテロ聖パウロ教会  
牧師 司祭 越山 健蔵

2011年3月11日東日本を大地震による大津波が福島県大熊町・双葉町にまたがる福島第一原発を襲いました。全電源が失われ炉心溶融が起り（後日発表）12日午前10時17分炉内の圧力を逃すため放射性物質満載の高温の水蒸気が先ず排出（ベント）されました。このベントには濾過装置が未整備でした（後日発表）。午後3時36分に1回目の水蒸気爆発が起り、14日には3号機でも爆発が起き福島県下に高濃度の放射性物質を撒き散らしました（いわきでは25マイクロシーベルトを観察）。6ヶ月が経ちましたがいまだ終息が見えず、福島県民は恐怖と不安と闘いながら、今も必死に耐えながら生きています。

### 福島県の9月5日現在の現況…見えない安心

総人口：2,024,401人

（震災後：1,997,400人）

避難者数：3,942人（県外：55,793人）

児童数（幼・小・中・高）：270,000人（転校・転園：18,000人このうち県外は8,100人）

外国人観光客：3,239人（震災後：174人）

### 郡山セントポール幼稚園の現在…かかせない洗浄作業

3月14日までの3回の爆発で土壤汚染が始まりました。現在空間線量は減少の傾向が見られるもの、いまだ人が安心して住めるレベルではありません。私が住まいとしている郡山市は、第一原発～双葉町～飯舘村～川又町～福島市～二本松市～そして郡山市へと続く放射性物質が風（風の道）によって流され

た到着点の最後の地点（原発から約60キロ）です。幼稚園・教会のある麓山（はやま）はその中でも常時1.3～1.7マイクロシーベルト（場所によっては3マイクロシーベルト～）が検出されるホットスポットと呼ばれる線量が高い地域です。

当幼稚園では少しでも線量を下げるべく園舎の除染を園児が登園する前の朝7時30分と降園後の2時30分の2回、高圧洗浄機2台で洗浄しています（1ヶ月ですでに2機がオーバーヒートし壊れてしまいました）。また園舎内も同様水拭き掃除が欠かせません。むろん園庭は表土を削り土を入れ替えました。削った表土は処分する場所がありませんので、園庭の片隅に深い穴を掘り埋めてあります（表土は8マイクロシーベルトありました）。おかげで現在0.4マイクロシーベルト～と低くなりましたが、園舎ベランダのドアには一部鉄板で覆い（ガンマー線はガラスを透します）をしてあります。



これだけ対策を講じても園児の減少は止まりません。外遊びはここ6ヶ月一度も出来ません。

子どもにも親にも先生にもそして私も、耐えられないくらいのストレスがかかっていると感じています。

一步外に目を向けると近くの公園からは子ども

たちの姿が消え、立ち入り禁止のロープが張られ、子どもたちが遊んだ緑の芝生は全て剥がされ無残な赤い土が痛そうにその姿をさらしています。また、いろいろな放射線に関する風評被害、差別にも福島県民はかなり傷つけられています。悲しいのはどこまで安全なのか誰にもわからないことです。そのため人々の疑心暗鬼が渦巻き、人間関係が破壊されていくのではという心配が芽生えています。

全ては先の見えない手探りの状況の中で闘いが続けられています。何時の日か明るい笑顔で園庭を走り回ること子どもたちの元気な姿が戻ってきますように、皆様のご支援とお祈りをお願いいたします。

主に在って  
(郡山セントポール幼稚園チャプレン)



■本稿は郡山(こおりやま)の事が主になりましたが、福島市の「みその幼稚園」(聖公会系列)の奮闘ぶりは最近の報道で取り上げられました。それは大変な労苦を負っています。紙幅の都合で今回は割愛しましたが、福島は郡山以上に困難な状況にあることだけは記します。(本稿の写真は、郡山セントポール幼稚園の先生方による毎朝の洗浄の様子です。)

2011年7月21日

内閣総理大臣 菅直人殿  
経済産業大臣 海江田万里殿  
原発事故収束・再発防止担当大臣 細野 豪志殿

### 福島第一原子力発電所の事態に当たっての要望

東日本大震災における福島第一原子力発電所の大事故発生から4ヶ月が経過しました。この間の事態は、原子力発電所から環境に放出される放射能が人々の生命にとって重大な脅威を与えていることを示すとともに、原子力発電所の存在そのものに大きな問題があることも明らかになってきました。その問題性とは、特に次の点にあります。

- (1) 大規模地震に対する対策が不十分なまま、世界的に見ても地震多発国である日本に立地されていること。この事実を目をふさぎ、「安全神話」が作られてきたこと。

- (2) 今回の事故が明らかにしたように、いったん事故が起きると、炉心溶融を初め重大な事態を引き起こし、大量の放射性物質を環境に放出し続けること。
- (3) 使用済み核燃料の処理技術が未確立であり、使用済み燃料の貯蔵量は増加する一方であること。また、その放射能を閉じ込める対策も不十分であること。
- (4) 発電に使用されない大量の廃棄熱が二次冷却水によって環境に放出され続けること。
- (5) 要するに、民生用の科学技術としては未完成的な技術であること。

これらの問題性が何の解決も見ないまま、今、原子力発電所の再稼働を主張する人々もいます。これは、国民・住民の命を省みない論理であると言わざるをえません。われわれは、神によってつくられた人間の生命と、多くの命を育む自然環境を大切にす立場から、以下のことを要望いたします。

- (1) 外部被爆のみならず内部被爆も含めた被曝量の安全基準を厳密に定め、その科学的・医学的根拠を明らかにすること。福島県はもとより、東日本各地における放射線量の測定を厳密に（地上付近で）行い、安全基準を超える結果が測定された地域から、特に乳幼児・児童・生徒を初め、若い世代および妊産婦を優先的にすぐに避難させること。その受け入れ体制を造ることに全力を挙げる。また、校庭の汚染土壌の除去など、乳幼児・児童・生徒に対する放射能汚染を防ぐ最大限の措置を講じること。
- (2) 今後、数十年にわたって、住民の放射能汚染の影響について追跡調査し、必要な医療措置を講じること。
- (3) 食品に対する放射能汚染の測定を長期にわたって継続し、その結果をすべて公表すること。
- (4) 全国の原子力発電所の耐震対策を全面的に見直し、その地域における過去1000年以上の地震の歴史をも再調査し、東日本大震災級の地震および津波に十分に耐えうる構造にすること。その科学的根拠を公表し、立地県の住民および自治体のコンセンサスを得るまでは、絶対に再稼働を認めないこと。
- (5) 老朽化した原子力発電所から、十分な放射能対策を講じた上で順次破棄し、新規原子力発電所の建設を行わないこと。
- (6) 太陽エネルギー、風力、地熱、その他再生可能な自然エネルギーを用いた発電システムの開発と普及を奨励し、政府としても開発に力を入れること。また、独立系電力事業者の電力の利用を含め、従来電力政策を改革し、新たな電力源開発に対する障害を取り除くこと。

以上

日本聖公会・正義と平和委員会 委員長 谷 昌二

## 「青年井戸端会議」の報告と、これから

青年委員会委員 司祭 小林 聡 (京都教区)

2011年8月29日(日)、30日(日)、青年井戸端会議が、京都のザ・パレスサイドホテルを会場に開催されました。参加者は各教区から2名の青年と青年担当者1名、そして管区青年委員会委員の総勢44名でした。この会議は、昨年日本聖公会プレ宣教協議会の中で、青年自身から「青年の声を聞く機会を」との声を受けたこと、更に全国青年大会を視野に入れ開催されました。

一日目は、開会礼拝の後、主旨説明やこれまでの青年活動の流れ、国際聖公会青年ネットワークについてなどの報告を受けた後、3人の青年からそれぞれの生き様、クリスチャンとして生きる思いを聞きました。九州教区の山本尚生さんからは「ことわれない生き方」というテーマで、様々な折に青年活動に接する機会があり、教会のつながりの中で活かされてきた恵みが語られました。北海道教区の高木泉さんからはご家族のつながり、GFS世界大会参加など、人とのつながりを通して神さまが働いてくださったことが語られました。東京教区の中村真希さんからは聖書の深みに触れたいと、ローマの教皇庁立聖書学校で学んでおられること、また国際聖公会青年ネットワーク(IAYN)に参加しての感想が語られました。

その後青年は3つのグループに分かれ、それぞれの発題を聞いた感想や、これからの青年の活動について分かち合いました。青年担当者、青年委員は、今年夏に行われたIAYNの報告を聞き、東日本大震災の被災者支援を国際聖公会青年ネットワークとして支えていくことや、女性・少女に対する暴力を止めさせるキャンペーンが大きな課題であること、また世界の各地域ごとの青年大会開催が期待されていること、そして日韓青年交流や、日本の全国青年大会において平和の器となっていきたいとの思いがあふれ出てきていることが、今の世界の平和実現の大

きなメッセージとなっているという報告がなされました。

夕食の後、今年3月11日に起こった東日本大震災の被災者支援に関して「いっしょに歩こうキャンペーン」で作成したDVDを見た後、被災当事者、又ボランティア青年である、越山哲也司祭、山本尚生さん、岩本翔太さんからの報告をスライドを見ながら聞きました。越山先生からは、想像力を失わないで欲しい、継続して関心を持ち続けて欲しい、そして、10月～12月にかけてのボランティア活動要員を募集。また東北への旅行でも大きな経済的支援になるとお話されました。ボランティア活動をされているお二人からは、人と人、心と心が出会い、共に生きる働きをされているんだなあという印象を受けました。ここにいた私たちは3人の報告を心の深い所で聞き、それぞれの言葉がこれからのわたしたちの動きの礎になっていくと思いました。その後分かち合いの礼拝を行いました。

翌日は青年グループの分かち合いの報告がなされ、今後の方向性が模索されました。要点だけ記述します。全国規模での青年同士の交流を最低でも年1度持ちたい。今回の井戸端会議に参加したメンバーを中心に企画してみたい。様々なテーマで青年同士が分かち合う機会が欲しい。スポーツ大会、運動会などのイベントは“つながり”を作る原動力となる。全国青年大会開催の前に、知り合う楽しい企画をしたい。

その結果、青年達の積極的な思いと行動力から以下のようなことを進めていくことになりました。

青年の集まりを開催する。開催候補地は東京。進めるにあたって日本聖公会の各教区を4つのグループに分けて準備する。①北海道・東北、②北関東・東京・横浜、③中部・京都・大阪、④神戸、九州、沖縄。

各グループにブロック長を置き、青年を発掘

する。開催日時は全国青年大会前2012年2月。年齢：18～26歳。各教区参加6人。各ブロック長が話し合っていて進めていく。青年のつながりのグループ名は「U26—ユージロウ—」。各グループの長は：①赤坂聖矢（東北）、②神尾杏（東京）、③安屋敷三和（京都）、④八代良寛（神戸）。

2012年2月の集まりのためのスタッフミーティングを2011年11月に予定。来年2月の集まりの募集要項は2011年11月スタッフミーティングで決定する。他に役員が決められた。会計：齋藤晃（北海道）、古澤はん奈（九州）。広報：松村希（中部）、高橋愛（北海道）、

林嘉奈子（東北）、山本風太（神戸）。連絡ツールはフェイスブックを活用する。

以上のことが話し合われたが、今後更に具体的な動きになり、体制が整っていくと思われるので、各教区、教会にはその折にお知らせをさせていただくことになっている。

まだ動き出したばかりで課題も多いと思われますが、どうか青年自身の思い、祈り、行動を皆さんの祈りによって支えて頂ければと思います。そして全国の青年のみなさんがこのような動きを知り、つながっていただければと思います。



## 東日本大震災支援

### 「いっしょに歩こう！プロジェクト」 仙台オフィスから ④

—名取市での活動—

事務局長 司祭 パウロ 中村 淳

あの3月11日から早くも半年が経ちました。東北教区では宣教120年記念礼拝が県単位で行われていますが、9月11日には郡山聖ペテロ聖パウロ教会で震災後6ヶ月の記念礼拝を合わせて行われました。礼拝後「いっしょに歩こう！プロジェクト」の活動映像を参加者の皆さんと見て、プロジェクトの活動報告を行いました。この映像は若干の修正の後、できるだけ多くの方々に見ていただくためにお届けしたいと考えています。

今回は宮城県名取市におけるプロジェクトの活動をご紹介します。名取市は仙台市のすぐ南、仙台空港のある場所です。わたしたちの活動はこの地に住んでおられた仙台基督教会の信徒さんへの東北教区の救援活動に始まります。

海に面したこの地は津波によって壊滅的な被害を受け、この信徒さんの家も流されました。仙台基督教会では安否の確認から始まり、避難所への物資の支援、訪問を続けておられました。地区ごと仮設住宅に移られるころからその後を受けてプロジェクトが支援を続けています。この信徒さんを通じて地区の方々と出会うことができ、今ではここの方々が入居されている「箱塚桜団地」への支援へと広がりました。

支援の内容は当初の物資支援から夏祭りへの参加等への交流へと重点が移ってきています。その中でも毎週木曜日に行っている「買い物バス」は好評です。この仮設団地は同じ名取市内の内陸部にありますが、車が無いと買い物に若干不便な場所にあります。車を持たない高齢者の方々へ向けてワゴン車を2台用いて送迎サービスを行っています。単なる買い物の足ではなく、周辺部を回って見たりと気晴らしの機会ともなっています。初回は閑上ゆりあげの地に震災後初めて行かれた方がほとんどで、みなさんたくさん泣いてきました。その後は皆さんのご希望に合わせて運行を行っています。参加される方は固定メンバーもいらっしゃいますし、そのメンバーがあ

まり家から出られない方を誘われてこられる様子も伺えます。この仮設住宅は「ひとりも孤独死を出さない」ことをモットーとしておられます。

わたしたちの活動は基本的に行政等の支援が届かない分野、場所、人を対象に行っていますが、その枠組みは日々変化しています。被災された方々が仮設住宅に移られてからはその仮設住宅がどのような状態に置かれているか、自治会長さんはどのような方か、によって大きな差が現われてきています。支援を続けてきたところが安定してきている一方、支援が行き届かない

場所が出てきているのも事実です。わたしたちの活動が東北教区の信徒さんの救援からスタートした経緯から、顔の見える関係を大切にしてきましたが、その結果が万全であるとはいえないことを自覚しています。この大震災の被災地は広大で被災された方々は大変多いのです。それに対してわたしたちの小ささを感じざるを得ません。このわたしたちがどのように進んでいくのかを、いつも祈りながら確かめていくものでありたいと願っています。

(「いっしょに歩こう!プロジェクト」特命担当主事)

「いっしょに歩こう!プロジェクト」ホームページ  
<http://nssk.org/walk/>



#### ■新刊から

## Ministry 2011 夏号

### 特集 いま、語るべき言葉 「東日本大震災」

(キリスト新聞社刊 定価 1575 円)

あの日以来、私たちは被災地の惨状に言葉で失い、自然の驚異を前にただ呆然と立ち尽くすしかない非力さに打ちひしがれている。「3・11」後を生きるキリスト者がすべきことは、この現実に向き合い、思索し、語るべき言葉を自らの口に取り戻すことだ。そのために、さまざまな立場からのメッセージを発信することを意図してこの特集は編まれた。

○「ルポ・被災地に立つ」は、日本基督教団東北教区被災者支援センター、仙台キリスト教連合被災支援ネットワーク、ルーテル教会救援対策本部、学生ボランティアのはたらき、フクシマのいま、などが綴られる。桃井和馬氏の現地写

真・文「神の領域と人間の領域」が被災地(宮城・福島)の姿を伝える。

○「3・11 後に「語られた」言葉、として、国内外のメッセージと論調を、また「3・11 後に「語るべき」言葉、として、わが国のキリスト教界識者の発言を集めている。稿の一つとして西原廉太司祭(WCC 中央委員)が「東日本大震災」に対する世界のキリスト者からの支えについて、グローバル・エキュメニズムの視点から伝える。

○特集ページのほぼ中央に「シリーズ・日本の説教者」>「ロングインタビュー 加藤博道」(聞き手・平野克己)の記事が据えられる。この大震災に直面した日本聖公会教区主教の心情と信仰とを切々と語って、まさにこの特集記事『いま、語るべき言葉』の真髄を衝くものとの感を深めつつ読んだ。この記事には、加藤主教が5月29日に東北教区郡山聖ペテロ聖パウロ教会でなされた説教を収めるDVDが添えられる。復活節第6主日の説教と共に、大震災直後の緊張感がなまなましく伝わって来る内容である。

(管区広報主事・鈴木 一)

## 聖公会国際青年ネットワーク各管区担当者会議 報告

京都教区 司祭 小林 聡

2011年8月13日(土)～18日(木) 於:香港聖公会東九龍教区聖匠教会、聖匠賓館

参加者:Peter Ball カナダ聖公会、運営委員、世話役 / Kelly Burke バルベイドス(2011～運営委員) / Kevin David モーリシャス / Adrian Dorrian アイルランド聖公会 / Tim Feak ウェールズ聖公会 / Douglas Fenton カナダ聖公会、運営委員、世話役 / Insar Gohar パキスタン合同教会、運営委員(～2011) / John Hebenton メラネシア・ニュージーランド・ポリネシア聖公会、クライストチャーチ教区、運営委員(～2011) / Kei Ikezumi 日本聖公会、運営委員 / Ewart Jones アメリカ聖公会 / Satoshi Kobayashi 日本聖公会 / Jeff Lizardo フィリピン聖公会、山岳地域教区(運営委員～) / Mahola Maropeng 南方アフリカ聖公会、ケープタウン教区(運営委員～) / Steven Schwarzrock オーストラリア聖公会 / Michael Tamihere メラネシア・ニュージーランド・ポリネシア聖公会、オークランド教区、ACC 青年代表、運営委員 / Kwok Keung Chan 香港聖公会東九龍教区

### 1. 会議の目的

- ・各管区青年活動の分かち合い
- ・女性・少女への暴力を終わらせるキャンペーン
- ・ACC(2012) 報告議案作成
- ・青年ネットワークの構築
- ・各地域(アジア、アメリカ、アフリカ、英国・ヨーロッパ・中東、オセアニア)ネットワーク
- ・季刊誌の「ブエナ・ヌーバス」の編集

### 2. 報告

各参加者から、報告があったが、ペーパーを用意している者、パワーポイントを用意している者、口頭だけの者など様々で、ホームページ上に掲載されているネットワークニュースや最近出された季刊誌「ブエナ・ヌーバス」を参考にすると、かなり多様な活動を知ることが出来た。

日本から報告したことは3つ。

- ・全国青年大会と日韓青年セミナーについて。特に、韓国との歩みや歴史への責任、平和を作り出す使命という点においては、インパクトのある報告となったと思われる。特に、ウェールズのティム、南アフリカのマロベンガからの反応があり、歴史認識と和解、平和、暴力反対の視点から共感が得られた。
- ・東日本大震災の被災者支援とヴォランティアにつ

いて。池住圭さんが、DVDを交えながら訴えられ、「いっしょに歩こうプロジェクト～まどか荒浜支援」について大きな共感を得られた。

・女性や少女に対する暴力を終わらせるキャンペーンについて、ジェンダープロジェクトの取組みの資料を提出した。残念なことに6月30日までに各管区は取組みの報告をすることになっていたが、この時点では日本を含め4つの地域からしかレスポンスがなかった。しかし、確実にこの問題は全聖公会の直面している問題であると感じた。

### 3. 出された課題

- ・一週間を通して深められる課題をみんなで出し合った。生きる意味を失っている青年の現状や、聖公会アイデンティティー、洗礼の意味、ネットワークの意味や現状、自然災害や人災(原発汚染)、セクシュアリティ、暴力、人身売買等多岐にわたった。
- ・私が感じたことは、ネットワークが具体的に何を課題として取り上げ、それをみんなが一緒に取り組むことでしかつなげていかなければいけないかということだった。その意味で個々の関心を出し合ったが、それらを如何につなげて、全聖公会の各レベルの中で実質的な働きにしていけるのかが課題だと思った。

### 4. 香港聖公会での体験

・全聖公会の中で一番若く、一番活気に満ちているとの、香港聖公会司祭の発言の通り、1997年にイギリスの植民地から解放された香港は3つの教区と、1999年ポルトガルの植民地から解放されたマカオの宣教地区とで、独立管区として香港聖公会を形成している。初日に東九龍教区主教座聖堂で経験した、青年の礼拝は、青年自身が3月から計画し、聖餐式の中で青年によるゴスペルを取り入れ、苦しみを生き抜かれるイエスというインテンションから、日本の被災者のことを覚えた礼拝が行われた。

・3つの教区、1つの宣教地区から青年、司祭を交え、交流の時を持った。そのエネルギーともてなしの心に感動した。

### 5. ACC 報告議案

・ACC(2012) 議案作成:3年以内に各地域毎に青年の集まりを持つ。また女性・少女に対する暴力を終わらせる取組みを青年自身のプログラムの中に取り入れていく。また、ネットワークのところで触れるが、東

日本大震災の被災者支援をしていくということが盛り込まれるかもしれない。

## 6. アジア地区ネットワーク

・ 各地域ごとに代表を選出し、その人がネットワークの運営委員となる。3年1期の2期を勤める。池住圭さんが選ばれ、又パキスタンのインサーが交代で、フィリピンのジェフが候補に挙がっている。アジアは東北アジアからインド、パキスタン方面まで含まれる



ゆえ、運営委員の方々の日頃からの細やかなつながりの取組みに感謝したい。

・ 今回150人規模のアジア青年大会が香港で開催予定だったが、20数名しか参加希望者が得られず断念した。主催は香港聖公会だったが、2013年にあらためて開催を目指している。このことを是非アジアの各管区も積極的に捉え、ともに準備できたら盛り多い集まりになるだろう。

・ 韓国、台湾、東南アジア、スリランカ、インド、ミャンマー、バングラデシュ等がネットワークとのつながりが薄いですが、今後、積極的に交流していけたらと思う。

## 7. 青年ネットワーク

・ 各管区青年担当者は、それぞれの管区に、青年ネットワーク分担金と、青年担当者の交通費を申し出る。この背景には、昨今の予算削減に伴い、青年活動に充てる費用が削られてきている現状がある。

・ 池住圭さんの働きのお陰で、2011年9月から一年間、「いっしょに歩こうプロジェクト～まどか荒浜支援」をネットワークとしてすることになった。各管区でこのことを青年に知らせ、祈りがなされる。これは、ネットワーク史上初めてのことで、具体的なことに取り組むことは大きな前進といえる。毎年、運営委員会



で、支援先を選定し、ネットワークは他者のために祈り、支援する中で、共に生きるという恵みを頂く。

・ 女性・少女への暴力を終わらせるキャンペーンは、聖公会の他のネットワークとのつながりと、各管区、教区の教会内暴力が深刻化してきたことがその発端にある。今後、日本の青年プログラムの中に積極的に暴力防止の為のワークショップを盛り込むことが必要であるし、他のネットワーク(家庭、女性、正義と平和等)との交流が世界や日本で必要であるし、それが人的交流等具体化されていく。

・ 季刊誌「ブエナ・ヌーバス」は2012年1月発刊予定。今回様々な資料が提供されたので、それを全部載せ、フランス語やスペイン語などに翻訳され、一部日本語韓国語に翻訳予定。

・ 運営委員会は年一回、担当者会議は3年に一回開催予定。その間に、各管区間の交流、各地域の青年大会の具体化の模索、課題ごとの分かち合いが期待される。南アフリカのマロベンガは2012年イギリスで行われる、the Community

of the Cross of Nails conference

で、日韓の取組みが大きな励ましとなるだろうと語ってくれた。恐らく、イギリスとドイツを始め、かつての敵対国や植民地の傷跡等がどのように和解し、平和を作り出していくかに世界は関心を示しているのだと思われる。その意味

で、日本聖公会の青年活動が目指してきたことを今後も続けながらさらに世界にもっともっと発信していくことが期待されていると思う。

・ 一つの夕の祈りを司式させて頂いた。その中で日本からの祈りとして、かつて原爆が落とされた日本が、戦後自らの貪りのために40基を超える原発を保有し、今放射能汚染を撒き散らしていることを懺悔し、平和の器となれるように祈った。ある参加者から、とても心に響いたと言葉を頂いた。ネットワークは単に形だけのものではなく、具体的に共に喜び共に痛む血の流れている体だということであらためて感じた。いい部分だけではなく、懺悔すべき事柄を祈り合える共同体であると感じた。

・ 長いスパンで青年が育ち、ネットワークにコミット出来る体制を作っていきたい。

・ 新しく運営委員となる人たちに手を置き祈りあった。心の通うネットワークは、聖公会そのものを現している。